

秋田県スキー連盟公認

第36回 GALLIUM CUP 大回転競技大会

チームキャプテンミーティング資料

1. 競技規則は、全日本スキー連盟ルール最新版を適用します。
2. 計時は、電気計時装置で行います。
3. 各カテゴリの出走順について
 - ①小学校4年女子
 - ②小学校4年男子
 - ③小学校5・6年女子
 - ④小学校5・6年男子
 - ⑤中学校女子
 - ⑥中学校男子
4. スタート及びフィニッシュ並びにコースについて
 - (1) スタート地点 標高 約1,150m
 - (2) フィニッシュ地点 標高 約1,000m 標高差 約150m
5. スタート方法について
スタート間隔は30秒とし、機器の発信音でスタートとします。
6. コースインスペクションの方法について
競技者はスキーを装着の上、示された入場制限時間内にコースへ入場してください。なお、入場制限は、インスペクション開始10分後とします。
入場制限以降のコース内への立ち入りは禁止します。
新型コロナウイルス感染症対策として、次のURLに記載された事項をご確認ください。
<http://saj-wp.appmlj.com/wp-content/uploads/b744ef28ba796fe93a7a5b6f2a837091.pdf>
7. 抗議及び再レースについて
失格に対する抗議については、主審決定報告書による失格公示後15分以内とします。
8. コース整備について
競技中に随時行いますが、特に必要と判断された場合には、放送で周知の上、競技を中断して整備することがあります。
9. 競技上の注意について
 - (1) インスペクションについて、選手はビブを着用の上、行ってください。
 - (2) スタート地点での点呼は、競技開始10分前を目処に一斉に行います。
 - (3) 競技中は、コース内への立ち入りを一切禁止します。コース内での観戦を希望する監督及びコーチは、競技開始7分前までに入場し、5分前には待機場所を固定してください。
 - (4) 競技中は、コース内での競技役員以外の自由移動を一切禁止します。ただし、主審の判断によりコース係と行動をとる場合のみ許可することがあります。
 - (5) 競技者は、クラッシュヘルメットを必ず着用してください。また、バックプロテクターの装着を推奨します。

- (6) 選手が完全に止まった場合（例：転倒）、その選手は以降競技を続けることはできません。速やかにコースアウトし、役員の指示に従いコース外を降りてください。

10. 公式掲示について

- (1) ゴールハウス付近に仮発表掲示版を設置し掲示します。
- (2) 旗門不通過等による失格は、掲示板及び放送で発表します。
- (3) 公式計時への切り替え時間は、掲示板及び放送で発表します。

11. その他の協力要請について

- (1) スケジュールについて、要項から一部変更している部分があります。詳細については、別紙プログラムをご確認ください。
- (2) 悪天候及びその他の特別な事情により競技時間を変更する場合など、配布資料に記載のない事項については、臨時チームキャプテンミーティングを開催し決定します。なお、その内容については放送によりご案内いたしますので、聞き漏らしのないようご注意ください。
- (3) 競技役員以外の方については、スタート及びフィニッシュエリア並びにコース内への立ち入りを禁止します。
- (4) ビブは、フィニッシュ後、速やかにフィニッシュエリア出口に設置している回収ボックスへ返却してください。また、途中棄権した場合も同様です。
- (5) 賞状配布時刻及び場所については、当日放送にて連絡します。（各学年6位まで）
- (6) ゲレンデ及びレストラン等の施設は、マナーを守ってご利用ください。特にフリー滑走中の接触事故には十分に注意してください。
- (7) 選手リフト乗車は、8時45分からとなります。競技役員も同じリフトを使用しますので、スムーズな大会運営のため、競技役員の優先乗車にご協力をお願いします。
- (8) レース当日、競技者専用のアップバーンはありません。トレーニングの際は接触事故等に十分注意してください。なお、リフト運行開始以降レース終了まで、コース付近のフリー滑走を禁止します。また、コースセット及び撤去並びに競技中は、許可なくコース内へ入ることのないようお願いいたします。

12. その他

- (1) 大会券の販売を行います。ビブを持参の上、チケット売り場で購入してください。
- (2) 選手受付及びビブ配布並びに体調確認票受理は、8時45分よりレストハウス1F大会事務局にて行います。大会運営の都合上、10時をめぐりに受付を完了して下さるようお願いいたします。
- (3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に係る取り組みとして、文部科学省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、全日本スキー連盟のガイドライン等を遵守して下さるようお願いいたします。